

令和5年度「やってみよう！遊ぼう！北区雪合戦大会」

試合進行概要（競技ルール）

○ コート

- ・国際雪合戦とほぼ同じ規格とする。（エンドライン10m サイドライン36m）
（センターシェルター、第1・第2シェルター、シャトーも同規格）
【北区特別ルール：バックラインなし（フォワード、ボックスの規定なし）】

○ 雪球・用具等

- ・雪球について
2セット分120球（1セット60球）を雪球製造器で作製する。（原則、チームごとに作製する。）
- ・ヘルメットについて
競技中は着用すること。（大会主催者から貸し出しあり。）
- ・ビブスについて
1～7番を着用すること。（大会主催者から貸し出しあり。）
- ・靴について
金属製のスパイクのついた靴は使用不可とする。

○ 試合

- ・1セット2分。2セットマッチで行なう。
- ・雪球に当たった選手はアウトとし、コート外へ退場。（指定された場所で待機とする。）
【北区特別ルール：原則、フェアプレイ精神によるセルフジャッジ（最終判定は審判に従う）】
- ・先にアウトとなった選手が投げた雪球に当たった選手は、セーフとする。
- ・サイドラインまたはエンドラインから体全体が出た場合はアウトとし、コート外へ退場。
- ・雪球の受渡しに制約は設けない。（公式ルール上のアウトを適用しない。）
【北区特別ルール：お手玉行為、渡し方（味方が投げた雪球のキャッチ）、個数等の制約なし】
- ・故意に雪球を割ったり、雪を加えて作り直したりすることはできない。
- ・選手交代は、セット間のみ可。（退場選手の補充は、そのセット内では不可。）

○ 勝敗

【試合】2セットを取ったチームの勝利。

- ・セットカウント1対1の場合は、各セットの取得ポイントの合計が多いチームの勝利。
- ・両チームが上記のいずれも同じ場合は、ビクトリースロー（サドンデス）により決定。

【セット】タイムアップ時に、コート内に残った選手が多いチームの勝利。

- ・セットの取得ポイントは、両チームともにコート内に「残った人数×1点」を与える。
- ・ただし、次の場合は、セットの勝利チームに「10点」を与える。
①相手チームのフラッグを抜いた場合。 ②相手チームを全員アウトにした場合。
③相手チームの反則負けの場合（センターラインを超えて4人以上の選手が相手コートに入る）。

○ 試合の流れ

- ・コート入場後、雪球の点検。競技者名簿を主審に提出。
- ・センターシェルターを挟んで、そのセットの両チーム出場選手が整列し、挨拶。
- ・エンドライン上に出場選手全員が片足を置き、主審の合図でスタート。
各選手が持つ雪球の個数制限なし（服に入れる行為は反則）。フライングがあればやり直し。
- ・主審から試合中断の合図があった時は、その場で待機。（持っている雪球はそのまま）
試合再開は、主審の合図とする。
- ・セット終了は、主審の合図による。
アウト以外の選手は、エンドライン上に整列し、審判の確認を受ける。
- ・試合終了時は、センターシェルターを挟んで両チーム全選手が整列し、主審から結果の報告を受け、挨拶をする。